
NetBackup READFIRST for Solaris and Windows NT/2000

3.4 日本語版 (GA) リリース

目次

- A. オンライン マニュアル
 - B. インストールについて
 - C. NetBackup 3.4 日本語版の新機能
 - D. サポートされているプラットフォームと周辺機器について
 - E. 本リリースの NetBackup の使用上の注意
 - F. 既知の問題点と制限事項
-

A. オンライン マニュアル

このリリースには、以下の日本語版と英語版のオンライン マニュアルが含まれています。

NetBackup 3.4 Release Notes
NetBackup DataCenter Installation Guide UNIX
NetBackup DataCenter Installation Guide Windows NT/2000
NetBackup Installation Guide for PC Clients
NetBackup BusinessServer Getting Started Guide UNIX
NetBackup BusinessServer Getting Started Guide Windows NT/2000
NetBackup BusinessServer System Administrator's Guide UNIX
NetBackup BusinessServer System Administrator's Guide Windows NT/2000
NetBackup DataCenter System Administrator's Guide UNIX
NetBackup DataCenter System Administrator's Guide Windows NT/2000
NetBackup BusinessServer Media Manager System Admin guide UNIX
NetBackup BusinessServer Media Manager System Admin guide Windows NT/2000
NetBackup DataCenter Media Manager System Admin Guide UNIX
NetBackup DataCenter Media Manager System Admin Guide Windows NT/2000
NetBackup Media Manager Device Configuration Guide UNIX
NetBackup Encryption System Administrator's Guide
NetBackup FlashBackup System Administrator's Guide
NetBackup for NDMP System Administrator's Guide
NetBackup for Oracle System Administrator's Guide UNIX
NetBackup for Oracle System Administrator's Guide Windows NT/2000
NetBackup Troubleshooting Guide UNIX
NetBackup Troubleshooting Guide Windows NT/2000
NetBackup User's Guide UNIX
NetBackup User's Guide Windows 95/98/2000/NT

注意: これらのドキュメントは、アクセスしやすい場所に CD からコピーしておく便利です。

B. インストールについて

Solaris 版のインストール

Solaris 版の NetBackup のインストールは、「NetBackup DataCenter Installation Guide - UNIX」に記載されているインストール方法にしたがって実行してください。

NetBackup 3.4 日本語版をインストールするには、まず最初に英語版の NetBackup 3.4 をインストールする必要があります。次に、CDROM のルート ディレクトリに存在する install スクリプト (/cdrom_path/install) を実行してください。

注意: 日本語版をインストールする際は、必ず英語のロケールを使用してください。詳細については、このファイルの以下で説明されている「F. 既知の問題点と制限事項」の「Solaris 版」を参照してください。また、日本語版の GUI (Graphical User Interface) を表示するには、NetBackup デーモンを再起動する必要があります。

日本語版のメッセージ パッケージには、日本語版のマニュアルページが含まれています。
日本語版のマニュアルページは、/usr/opensv/man/ja ディレクトリにインストールされます。
日本語版のマニュアルページを正しく表示するには、MANPATH 環境変数を設定する必要があります。

Windows NT/2000 版のインストール

DataCenter Windows NT/2000 版のインストールは、「NetBackup DataCenter Installation Guide – Windows NT/2000」に記載されているインストール方法にしたがって実行してください。
また、Business Server Windows NT/2000 版のインストールは、「NetBackup Business Server Getting Started Guide – Windows NT/2000」に記載されているインストール方法にしたがって実行してください。

ベータ版の NetBackup ソフトウェアが既にインストールされている場合は、本リリースをインストールする前に、ベータ版を必ず削除してください。

C. NetBackup 3.4 日本語版の新機能

- 1) さらに多くの日本語マニュアルをご提供できることになりました。
- 2) Encryption、NDMP、Oracle などのオプションやエクステンションが日本語ロケールでも使用できるようになりました。
- 3) Windows NT/2000 日本語版のサポートを開始しました。

D. サポートされているプラットフォームと周辺機器について

「NetBackup 3.4 Release Notes」マニュアルの「サポートされているプラットフォームと周辺機器」には、NetBackup 3.4 リリース および Media Manager 3.4 リリースがサポートするプラットフォームおよび周辺機器についての情報が説明されています。「NetBackup 3.4 Release Notes」が作成されてから生じた追加部分や変更部分に関しては、VERITAS の WEB ページ <http://www.veritas.com/> を参照するか、VERITAS のセールス担当スタッフまでお問い合わせください。

なお、英語版の NetBackup 3.4 リリースがサポートしていないプラットフォームや周辺機器で日本語版が独自にサポートしているものはありません。

Solaris 版:

本リリースには、NetBackup Solaris サーバーとクライアント用に国際化言語サポートが含まれています。国際化言語サポートは、現在 ja ロケール (EUC ロケール) でのみ使用することができます。現在使用しているロケールを表示するには、「locale」コマンドを使用します。「locale」コマンドの詳細については、「man locale」と入力し、表示されるマニュアルページを参照してください。

Windows NT/2000 版:

本リリースには、Windows NT/2000 サーバーとクライアント用に国際化言語サポートが含まれています。使用できる国際化言語サポートは、現在 SJIS ロケールに限定されています。

E. 本リリースの NetBackup の使用上の注意

次に、他のドキュメントでは説明されていない NetBackup の操作に関する重要な注意事項を説明します。

- 1) 本リリースは、日本語ロケールの環境の Solaris 2.6 (Sparc)、7 (Sparc)、8 (Sparc)、および Windows NT/2000 プラットフォーム用の NetBackup サーバーとクライアント用に作成されたものです。Solaris プラットフォームでは EUC ロケールに対応し、Windows NT/2000 プラットフォームでは SJIS ロケールに対応しています。PCK や UTF-8 などのロケールには現在のところ対応していません。
- 2) その他に、Oracle、NDMP、FlashBackup、および、Encryption などを含むエクステンションが追加されています。
- 3) ある特定のロケール上で指定されたファイルのパス名は、別のロケール上では正しく表示されないことがあります。たとえば、Solaris クライアント側で PCK-SJIS ロケールを使用してファイルのパス名を指定した場合、サーバー側の「バックアップ、アーカイブ、およびリストア」GUI で、ja ロケールを使用してこのファイル名を表示しようとする、ファイル名が正しく表示されません。これは、OS に関する制限事項であるため、NetBackup ではこの問題を解決することはできません。
- 4) NetBackup コマンドの中には日時を必要とするものもあります。その場合には、

使用しているロケールの日付の規則に従い、正しい形式の日時を使用してください。

たとえば、C ロケールでは次のフォーマットを使用します：

```
/usr/opensv/netbackup/bin/bplist -unix_files -s 7/1/1999 00:00:00 -e 12/29/1999 23:59:59 /tmp
```

日本語の ja ロケールでは、次のようになります：

```
/usr/opensv/netbackup/bin/bplist -unix_files -s 1/7/1999 00:00:00 -e 29/12/1999 23:59:59 /tmp
```

5) NetBackup のレポートを日本語ではなく英語で表示するには、ロケール設定を「C」に変更し、バックアップやリストアなどの操作を実行してください。

6) パッチに関して

NBU 3.4 日本語版パッケージがインストールされている Solaris サーバーおよびクライアントには、Solaris NetBackup 3.4 パッチを使用することができます。

NBU 3.4 日本語版パッケージがインストールされている Windows NT/2000 NetBackup サーバーおよびクライアントには、国際化版のパッチが必要です。

F. 既知の問題点と制限事項

Solaris 版:

既知の問題点と制限事項を説明します。

1) FlashBackup や NDMP などの NetBackup オプション ソフトウェアや NetBackup Database Agents および Encryption (40 or 56-ビット) をインストールする際は、必ず英語のロケールを使用してください:

英語のロケールへの変更方法を以下に説明します。

- csch、kcsch、sh などのシェルを開始します。
- install スクリプトを実行する前に、「LC_ALL」を「C」に設定します。
- install スクリプトを実行します。
- シェルを終了します。

注意: 日本語版を実行するには、「ja」を使用する必要があります。

ksh を使用した際の例:

- ksh
- LC_ALL=C
- export LC_ALL
- ./install
- exit

ローカル環境変数 (LC_TIME など) が ja に設定されていることを「locale」コマンドを使用して確認してください。

「locale」コマンドの出力例:

```
LC_TIME="ja"
```

その後の処理で日本語のメッセージが使用されるように設定するには、NetBackup デーモンを再起動する必要があります。

2) NetBackup には、ユーザーが使用できるシェル スクリプトが含まれています。これらのスクリプトは日本語化されていないため、すべてのプロンプトおよびほとんどの出力内容は英語のまま表示されます。

3) すべての Motif Administration GUI は英語で表示されます。本リリースでの使用はお勧めしません。Motif Administration GUI は、今後のリリースではサポートされなくなる予定です。また、今後これらの GUI に対する新しい機能は追加されず、問題点は解決されません。これらの GUI は、「goodies」ディレクトリにインストールされています。「goodies」ディレクトリにインストールされていることは、サポートにも制限があります。Motif Administration GUI の代わりに、操作や管理が簡単で、より拡張性がある Java GUI を使用することをお勧めします。ただし、Motif Administration GUI でも、クライアント アプリケーションである、xbp のサポートは継続されます。

4) クライアントのバックアップ、アーカイブ、および リストア プログラム (xbp) を日本語環境で実行すると、表示上の問題が発生する場合があります。なお、このプログラムを「C」ロケール上で実行した場合は、表示上の問題は発生しません。この問題は、3.4 NetBackup パッチ J0850645 で修正されます。xbp の GUI を使用するには、日本語版パッケージをインストールする前に、NetBackup パッチ J0850645

を追加してください。

5) Activity Monitor NetBackup-Java GUI の「アクティビティ モニタ」でヘルプ情報を表示すると、英語のヘルプが表示されます。日本語のヘルプ ファイルを表示するには、ウェブ ブラウザを使用する必要があります。Business Server をご使用の場合は、ウェブ ブラウザで
/usr/opensv/java/vrts/nbu/help/ja/AmtrMainHelp.html ファイルを開いてください。
DataCenter をご使用の場合は、ウェブ ブラウザで
/usr/opensv/java/vrts/nbu/helpDC/ja/AmtrMainHelp.html ファイルを開いてください。
この問題は、修正予定です。

6) Global Data Manager (ストレージユニット管理、バックアップポリシー管理、およびレポートの GUI) で Solaris 7 や Solaris 8 サーバーのホスト タイプが Solaris 2.6 と表示される場合があります。この問題は、GUI の左側の区画でマスタオブマスタ ノードを選択し、右側の区画でサーバーを指定すると発生します。右側の区画の「ホストタイプ」カラムには、選択されたサーバーの OS バージョンではなく、NetBackup バイナリファイルがコンパイルされたマシンの OS バージョン (2.6) が表示されます。

7) tpcogif メニュー主導型インタフェース (デバイス管理設定機能) の日本語版のヘルプ ファイルは、特に指定しない限りインストールされません。したがって英語版のヘルプが表示されます。日本語版のヘルプ ファイルを表示するには、CD-ROM から NetBackup をインストールしたディレクトリへコピーする必要があります。

日本語版のヘルプ ファイルのコピー方法を以下に説明します。

作業ディレクトリを CD-ROM ディレクトリへ変更します:

```
cd /<cd_rom_directory>/Doc/
```

<cd_rom_directory> は CD-ROM へアクセスできるディレクトリへのパス名です。

CD-ROM から日本語版のヘルプ ファイルを /usr/opensv/volmgr/help/tpconfig へコピーします。

```
cp tpconfig* /usr/opensv/volmgr/help/tpconfig/
```

8) 英語のロケールで bpmmedialist コマンドを使用すると、日本語のメッセージが表示されます。bpmmedialist は情報を取得するために、bptm -mlist コマンドを呼び出します。英語ロケールでメディア リストを正しく表示されるためには、次のコマンドを使用してください:

```
/usr/opensv/netbackup/bin/bptm -mlist
```

Windows NT/2000 版:

- 1) Microsoft の [サービス] アプレットの説明欄には、NetBackup サービスの説明が表示されません。また、説明が無いことに関するエラー メッセージがイベント ビューワに表示される場合があります。
- 2) バックアップ、アーカイブ、およびリストア GUI のログ レポートで表示上の問題が発生する場合があります。
- 3) インストーラを実行中に「次へ」ボタンで表示上の問題が発生する場合があります。
- 4) NetBackup レポートで印刷プレビューを実行すると、レポートのタイトル部分で表示上に問題が発生する場合があります。
- 5) NetBackup 管理 GUI で以下のフィールドに関しては、入力可能な文字列は ASCII 文字に限定されています:
ストレージ ユニット名、ディスク ストレージ ユニットのパス、ボリューム プール名、ボリューム グループ名、ボリュームの説明、メディア ID、バックアップ キーワード。
これらのフィールドで日本語の文字列を入力すると、有効な文字列 (ASCII 文字) を入力することを促すエラー メッセージが表示されます。

これらのフィールドに入力した文字列は、文字列全体ではなく、個々の文字が検証されます。
例えば、文字列の中に不正な文字が含まれている場合、表示されるエラーメッセージには、文字列全体ではなく、一番初めに入力された無効な文字が表示されます。
- 6) NetBackup クライアントを使用してリストアを実行すると、バックアップ、アーカイブ、および リストア GUI の [ステータスの表示] ダイアログ ボックスで「午前」と「午後」を表す文字列の「前」と「後」の部分が表示されない場合があります。この問題は、修正予定です。
当面の対応策としては、時刻の表示方法を十二時間形式から二十四時間形式へ変更します。
変更方法は、Windows NT のコントロール パネルから表示できる [地域のプロパティ] ダイアログ ボックスや Windows 2000 のコントロール パネルから表示できる [地域のオプション] ダイアログ ボックスで [時刻] タブを選択し、[時刻の形式] フィールドで「tt」が含まれていない項目を選択してください。
- 7) [マスター サーバーのプロパティ] ダイアログ ボックスのいくつかのタブで「...」と表示されている参照ボタンが機能しない場合があります。

[マスター サーバーのプロパティ] ダイアログ ボックスを表示するには、NetBackup 管理ウィンドウの [開始] メニューから [NetBackup の設定] を選択します。表示される [設定 - NetBackup] ダイアログ ボックスの左側の区画でマスター サーバーを右クリックし、ショートカット メニューからプロパティを選択します。

8) ダイアログボックスでヘッダー名全体が表示されず、「...」が表示される場合があります。ヘッダー名を正しく表示するには、ヘッダーのサイズを拡張してください。

プラットフォームに共通する既知の問題点と制限事項:

1) NetBackup に特有の言葉、例えば NONE、NetBackup、ANYHOST など、英語で表示される用語があります。

2) エラーの中には、英語で表示されるものがあります。意味が明解でないエラーや、日本語にするのが非常に困難な場合には、英語のままのエラー メッセージを使用しています。通常の操作では、この問題が発生することはありません。

3) NetBackup リリース 3.4 に関する、文字列の長さや要求されるフォーマットなどの制限事項は、本リリースでも同様の制限があります。

例えば、ボリューム ID は、ASCII 文字で 1 文字から 6 文字で構成されなければなりません。詳細については、Media Manager System Administrator's Guide を参照してください。

4) すべてのデバッグ ログは英語で記されています。なお、デバッグ ログが OS から渡された場合は、日本語で表示されます。例えば、sterror などから渡されたメッセージがログに記録されます。

5) 本リリースは、Solaris 版では、EUC ロケールだけがサポートされています。PCK および UTF-8 を含むその他の Solaris 日本語ロケール環境はサポートされていません。Windows NT/2000 では、SJIS ロケールだけがサポートされています。

6) デバイスやボリュームの制御を実行する ltid および vmd デーモンを ja ロケールで実行すると、デバイス管理 GUI で表示上に問題が発生する場合があります。この問題は、GUI の「デバイスの設定」の部分で発生します。

7) 古いバージョンの Acrobat を使用すると、フォントの表示に問題が発生する場合があります。また、しおりやリンクが正しく表示されないこともあります。この問題を解決するには、Adobe から最新バージョンの Acrobat とフォント パッケージを入手してシステムにインストールしてください。

8) NetBackup が電子メールを送信すると、正しく表示されない場合や、英語で表示されることがあります。

9) アクティビティ モニタの [ジョブの詳細] ダイアログ ボックスの二番目の [ステータスの詳細] タブでジョブの進行状況が英語で表示されます。この問題は、修正予定です。

10) バックアップ、アーカイブ、および、リストア GUI の [表示] メニューの [ツールバー オプション] を選択し、表示される [ツールバー オプション] ダイアログ ボックスに存在する [大きいボタン] オプションは使用できません。この問題は、修正予定です。

11) [NetBackup ライセンス キー] ダイアログ ボックスで [New] や [Print] などのいくつかのツール ティップが英語で表示される場合があります。
注: ツール ティップとは、マウスのカーソルをダイアログ ボックスのボタン上に移動すると表示されるラベルを指します。この問題は、修正予定です。

12) バックアップ ログをテキスト エディタで表示すると、表示に問題が発生する場合があります。仕様上の理由から、バックアップ ログをテキスト エディタで表示することはできません。このログを表示するには、バックアップ、アーカイブ、および リストア GUI を使用してください。(Unix では、[タスク処理] タブ、Windows NT/2000 では、[ステータスの表示] タブを使用してください。)

13) Solaris 版と Windows NT/2000 版のプラットフォームが混在している環境で本製品を使用する場合は、ご使用のプラットフォームによって、日本語を入力できるフィールドが異なるので、ご注意ください。

GUI	フィールド	Solaris	NT/2000
Backup ポリシー管理	キーワード	日本語入力可	日本語入力不可
バックアップ、アーカイブ、およびリストア	キーワード	日本語入力可	日本語入力不可
ストレージ ユニット管理	ディスク パス名	日本語入力可	日本語入力不可